夏油駒ケ岳（山スキー）

2011 年 4 月 03 日
松田他１

４月０３日（雪時々曇り　風強し）

夏油駒ケ岳は厚木近辺で言えば、大山くらいで近場の山である。昨春金ヶ崎からスキーで訪れたが、夏油側にもいいコースがあるということで、諏訪木先生に案内してもらうことになる。家から夏油大橋手前の林道入り口まで、２０分くらいで、アクセスは最高レベルである。

外鱒沢コースは本流の渡渉がきつそうなので、三角沼コースに変更する。車を降りるとゴーゴーと風が鳴って、雪が舞い、冬山のようだ。林道を歩き始めると、カリンカリンで、かなり歩きにくい。しかし雪の量は豊富で、さすがに夏油は豪雪地帯である。一時間くらい歩くと駒ケ岳がよく見える尾根の背のような場所に出た。駒は結構遠そうである。私の好きな前塚見山からオガラ森山に続く稜線がよく見える。結構、起伏があって面白そうなルートである。コンタ８３０ｍくらいで林道が終わると、このあたりからブナ林がとても素敵になる。三角沼の東の尾根を辿り、緩やかに登っていくと駒ケ岳の最後の急登になった。右に回り込んで登りやすそうな場所を探すが、どこも急で、スキーをデポしてツボ足にする。ピークまでの急登はあまり潜らずが、スキーを抜いで正解であった。山頂には真新しい社があり、昨年八月に建て替えられたそうである。その時使用した重量５５ｋｇの発電機を先生と二人の仲間で下まで降ろしたそうである。この辺りの山の信仰の篤さには本当に感心する。早速お参りをし、社の中をのぞくと、奉られていた馬の人形が倒れていて、地震の影響がこんな所にもあることに驚く。

夏油駒ケ岳山頂

西を望むと真っ白で大きな経塚山が間近に見えるが、まるで冬の装いでじきにガスの中に姿を隠してしまった。風も強く寒いので草々に退散し、スキーデポに戻る。下りはガリガリだがそこそこ快調で、必死に着いて行くのだが、どうも右スキーが頻繁に外れる。おかしいなと思ってよく見てみると、靴のかかとが剥がれかけていた。しばらくそのまま滑っていたがどうにも不快調で、先生にテープで補修してもらった。応急処置でまた滑れるようになり、尾根の背から一度小ピークに登り、近道をする。
ようやく夏油大橋近くの車に着くと結構いい時間であった。

駒ケ岳北面のブナ林

金ヶ崎側が一般的なのに対し、北面はほとんど人が入らないが、なかなか雰囲気のいいコースであった。

コースタイム
登山口（８：５０）－　林道終点（１１：１０）－　山頂（１３：００）－登山口（１６：１５）
地形図　　川尻（五万分の一）